

財団助成事業

アショカ・ジャパン「ユース・ベンチャー」発表会 報告

生涯学習開発財団が助成する事業のひとつ、アショカジャパンが主催する『ユースベンチャー第1回発表会』が、10月2日と9日の両日、政策研究大学院大学において開催された。ユースベンチャーは、12〜20歳の若者が社会問題を見つめ自らその解決に取り組む機会を与えることで、将来の社会起業家を多く排出する土壌づくりを目的としている。責任者の渡邊奈々氏は、震災復興に寄与するため、2016年までに800組2000人規模のユースベンチャー立ち上げをサポートしたいと述べた。

高校生、大学生たちによる社会を変えるためのプレゼンは、予想以上に多彩だった。ボランティア参加促進のためのポイント制度。留学生との交流を促進するカフェ。無料の塾構想。フリーダイビングによる心の病改善。竹製の自転車づくりツアーで離島を活性化する案。ペットの殺処分を無くすプロジェクト……などなど。5月22日キックオフ、7月2日参加申し込みからわずか3カ月にも関わらず、会場の各分野のプロジェクトを巻きプレゼンが続出し、会場のほぼ全員が協力したいと手を上げたシーンも。理由はその姿勢にある。利益のためでも名声のためでもなく、社会の問題を解決したいと純粋に取り組む姿勢が、出席者の心に響いた。

生涯学習開発財団では、学校や家庭など周囲への波及も含め、将来の社会貢献する人材育成のために効果的なプログラムであると判断し、ユースベンチャー事業を助成しています。



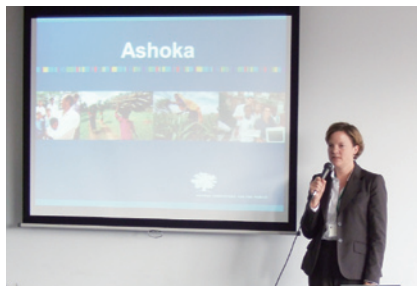
外見はいたって普通の高校生や大学生が、プロ顔負けの心に響くプレゼンをする。長時間の発表会にも関わらず退屈そうな人は皆無かった。



この日はNHKの取材カメラが入り、若者たちの志とその表情を追った。



東京の高校生と大阪の大学生が共感し遠距離で取り組む。



各分野のパネリストから改善点や今後の展開に活かせるヒントもたくさんもらった。

アショカ本部を代表して挨拶をするエイミー・ノイバウア氏(左)と、事業責任者の渡邊奈々氏(上)は、財団のLLメンバーズ交流会にもご参加くださった。

